

# 第14次派遣(美里) 8月7日(日)~8月12日(金)

班長：長谷川 仁さん(北海道)  
曾布川直宏さん(静岡)  
北村 朋之さん(近畿)  
古賀 昭弘さん(九州)

## 《全労金第14次派遣の4名が出発しました！！》 8月7日

全労金第13次派遣の中央労組・成塚さんと岡田さん、北陸労組の東さん、美里BCを拠点としたボランティア活動、大変お疲れ様でした。

そして、本日から全労金14次派遣として、北海道労組の長谷川仁さん、静岡労組の曾布川直宏さん、近畿労組の北村之さん、九州労組の古賀 昭弘さんが美里BCへ出発しました。美里BCまでは片道7時間30分と長時間の移動になります。

全国の組合員のみなさん、4名に対する温かいコメントをよろしくお願いします。



《左から、古賀さん、北村さん、曾布川さん、長谷川さん》



## 《無事に到着！》 8月7日



私たち全労金第14次メンバー4人は、11時に連合本部を出発し、無事、美里BCに到着しました。

6時間ほどのバスの移動でしたが、途中、仙台市内を通過した際、七夕の飾りを多く目にしました。ちょうど『仙台七夕まつり』が開催されているところです。伝統的なども綺麗な飾りでした。

地元の皆さんは、どのような思いを込めて、今年の飾り付けをしたのだろう・・・

去年までとは違った思いが込められた飾りを見ながら考えました。

被災地・被災者の方々のお役に立てるよう、明日から頑張る決意を新たにしました。私たちができることは限られていますが、明日から精一杯活動したいと思います！（報告者：長谷川）

## 《一日目終了～田園地帯～》 8月8日

石巻の海岸より内側5キロ地点、石巻市が保有する広大な土地は田園として市民に明け渡され、例年の今頃は秋の実りを目前に、青々とした稲穂が育っていました。

しかし、本日、私達が目にしたその場所は、ただ漠然と広い、荒れ果てた荒野でした。そこには、ビニール、瓦、コンクリート、バイク、車など様々な瓦礫が転がっており、田園地帯からは掛け離れた光景でした。海岸から3キロ地点に20件以上あった集落のうちのほとんどが、津波により押し流され、この田園地帯に置き去りにされたそうです。

私達は日差しの中、作業服、長靴、ゴム手袋、防塵マスクを装着し、泥と汗にまみれながら横たわる瓦礫を収集しました。

来年、または再来年、この土地に青々とした稲穂が育つ風景を思い浮かべ、少しでも農家の方が作業しやすいよう、泥の中に埋まった小さなビニールの破片も丁寧に拾いました。

私達にとってここでの活動はまだ始まったばかりです。しかし、現地の方々には毎日この悲しい現実と向き合い、戦い、疲れ果てています。なぜ彼らだけが苦しい思いをしなければならないのか。どうしてこんな仕打ちを受けねばならないのか。もしかすると本当は、同じ時代に生きるすべての人が一緒に苦しみ、解決していくべき問題なのかもしれません。私達の活動が、そんな苦しんでいる方々に少しでも役立つのであれば、惜しむことなく貢献したい。そのように強く感じました。

残りの活動日数は3日となります。怪我、事故のないよう無理をしないよう気をつけますが、強い気持ちを持って活動に臨みたいと思います。(報告者 曾布川)



## 《二日目終了～宝物～》 8月9日



2日目の今日は、昨日と同じ石巻市北上にある田園地帯での作業でした。作業内容に慣れ、昨日よりも早いペースで作業ができるようになりました。しかし私たちは、一つある事を守って作業を行っています。それは、瓦礫を大切に扱うということです。

今日までの2日間で、現地の方の大切なものがたくさん出てきました。財布、障害者手帳、学生証、家族で写った写真…。その他作業する中で出てきたものはたくさんありますが、どれも、あの津波が発生するまで現地のみなさんが所持されていたものばかりです。

「ガレキ」と言っても、一概にゴミばかりではなく、被災されたみなさんの宝物もたくさんあります。その宝物を一つでも多く見つけることができるよう、より一層努力したいと思います。(報告者 古賀)



## 《三日目終了～継続～》 8月10日

まずは今日まで多くのコメント頂きましたことに感謝申し上げます！全国から激励のコメント、近畿からは私に対して少し辛口のコメントですが…活動の活力になっていることは言うまでもなく、勇気づけられています！

今日は午前中のみ作業で、昼からは視察でした。結局午前中は前日までと同様に田んぼでの瓦礫などの整理を行いました！下の写真は静岡県からボランティアに参加された方々です。連合などの呼びかけでなく、自分自身で現地のボランティアに連絡して参加されたそうです。私も見習い、もっと自分で参加しなければ…と感じました。

昼ご飯の後に石巻を視察してきました。風景を見た瞬間に言葉を失いました…沿岸部の水産加工などの工場、民家の被害があまりにも大きく、かつ瓦礫等の除去もまだまだこれから…のようで、復興までの道のりはかなり長いように感じられました。

だからこそ、今年だけの活動でなく、復興が果たせるまで来年も再来年も、何度でも現地ボランティアへ参加する、参加できないのなら義援金や募金を継続していく、ボランティアに行く職場や友人をサポートすることがこれから重要であると感じました。（報告者 北村）



## 《三日目番外編～交流～》 8月10日

番外編で、この4人の晩ご飯をお世話していただいたお店を紹介します！</div>

美里のベースキャンプから左へ歩いて30歩くらいのところにあります。第13次派遣の方から引き継がれた絆という焼酎を探しに行った訳なんです、（8月3日のブログをご参照下さい）初めに入ったその店にどっぷり浸かってしまいました…（前回派遣の皆さん引き継げなくてゴメンナサイ…）

お店の名前は笑楽といいます！メニューがなく、初めは不安でしたが、野菜中心の料理で、美味しく頂きました！特に常連客の方が自分で作らたナス、トマトとお店のお味噌が抜群でした！

全労金の4人の団結は勿論、地元の方の笑顔が見れたのは何よりでした！

全労金15次で美里に派遣される方へ

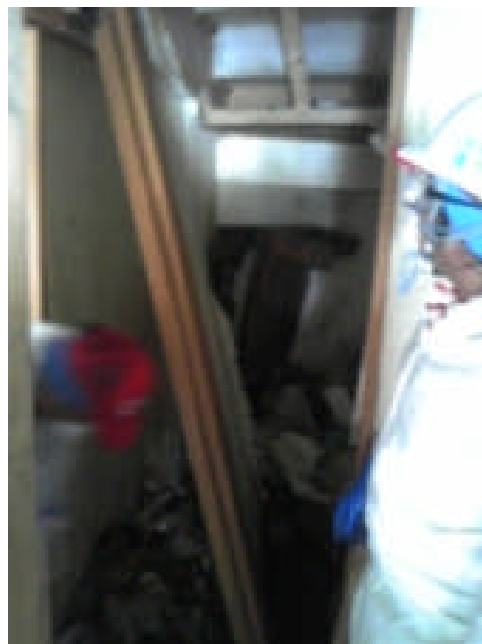
全労金でボトルキープしていますので、是非飲みと食べに来てください！予算は1人3500円あれば食べ切れないくらい出してくれます！あと、13次派遣の絆も引き継ぎお願いします！

以上、地元交流編でした！（報告者 北村）





## 《最終日終了～5ヶ月～》 8月11日



本日の活動は美里BCからバスで1時間半超、牡鹿半島・石巻市給分浜の民家での活動となりました。写真にあるように、2階まで津波の被害にあった家から家財や泥を外に出す作業です。昨日までの作業とはまったく違うもので、慎重な作業となりました。このような家が東北全域に無数にあると思うと、改めて大変な被害であったことを実感します。学生ボランティアと共に、1階と2階に分かれ、貴重品や写真等残すべきものを慎重に見極めながら、幾重にも打ち寄せたろう泥は重く、撤去は大変なものでした。ほんの数時間の作業でしたが、チームワーク良く作業が進められ、撤去を完了することができました。美里BCでは私たちを含め、20人+連合スタッフで活動を進めました。北は北海道から南は鹿児島まで、出身地・出身産別はバラバラですが、日に日に「チーム連合」のチームワークは増し、作業も効率化していきました。今日で終わってしまうのは惜しいぐらいですが、この場をお借りして「チーム連合」の皆さんにもお礼を申し上げます。お世話になりました！今日の活動を終えた私たちは、震災発生から5ヶ月となる14時46分、皆で黙祷をし、帰路につきました。



### 「5ヶ月」

人によって時の捉え方は様々ですが、被災地は、あの日から手付かずの場所はたくさんありますし、避難所生活をされている方々もたくさんいらっしゃいます。まだ5ヶ月しか経っていないのです。私たちはこれからも被災地・被災者のためにできることを継続しなくてはならないと改めて実感し、また、それを行動に移していきたいと思えます。

このブログを見ていただいた被災地・被災者の皆様、私たちは、これからも支援を継続していきます。どうか、少しでも多くの希望が持てますように、共に前へ歩いていきましょう。

最後になりますが、全国の仲間の皆さん、応援ありがとうございました！皆さんの応援

を力の源にして、今日まで頑張ることができました。第15次メンバーへの引き続きの応援をよろしくお願いします！そして、第15次メンバーの皆さん！できる範囲の中で体調には気をつけて、暑さ対策は万全にして、ぜひ頑張ってください！！全国の仲間が皆さんを応援しています！

以下に、各参加メンバーのコメントを掲載し、第14次のブログを終えたいと思います。コメントを寄せていただいた全国の皆さん、本当にありがとうございました！（報告者：長谷川）

#### 《九州・古賀》

日程終了しました！期間中、ブログのコメントなどみなさんの励ましは、心身共に辛かった私たちの大きな支えでした！ほんとに感謝しています。今回のボランティアでは、全労金の仲間をはじめ、一緒に参加された方々と、同じ方向を向いて、共に復興を願い力を尽くす事ができました。そして現地の方の笑顔を見ることができました。復興への過程をそこに見ることができました。今日で、震災からちょうど5ヶ月が経ちます。しかしながら、まだまだ復興の手が入っていない場所がたくさんあります。一日でも早く、元の綺麗な石巻、宮城、東北へ戻ることができるよう、切に願っています。来年はガレキを仕分けしたあの田園に稲が育つといいな。

#### 《静岡・曾布川》

3月11日からちょうど5ヶ月が経った本日、私達の活動は終了しました。三日間通った、キャンプの横にある居酒屋「笑楽」では、地元で農業を営むおじいさん達が集まり、おじいさん達が作ったナスやトマト、とうもろこしをお腹一杯になるまでご馳走していただきました。放射能の風評により宮城県産の農作物が売れない苦しさ、悔しさでいっぱいにも関わらず、遠い地から来た私達に、最後まで「ありがとう、ありがとう」と感謝の言葉をいただき、笑顔で接していただけました。私達は「ボランティア」としてこの地に赴きましたが、苦しい中でも必死に前を向こうと笑顔で生きる彼らの強さから、とても大切なものを学ばせていただくことができたと感じています。復興まではまだまだ長い時間がかかることと思いますが、現地の方々は私達の想像よりずっと強く逞しいです。私はこの町が必ず復興すると信じています。短い時間でしたが、非常に貴重な時間を体験させていただくことができました。みなさんありがとうございました。

#### 《近畿・北村》

今回参加された美里班の20名、現地スタッフ、全国の労金労組の仲間の皆さん、職場、そして現地の皆さんの笑顔に支えられ、なんとかやり切れたかと思います。貴重な経験をさせていただきありがとうございました！昨日の報告とかぶりますが、継続して支援に参加を続け、写真の『復興するぞ！』から『復興したぞ！』と石巻、東北の方々言えるようになれるまで、応援したいと思います。

#### 《北海道・長谷川》

連日の暑さの中の活動で、辛いときもありましたが、被災地・被災者の方々は、もっと辛く、苦しく、悲しい思いをされているのだと、奮い立たせ、活動しました。泥の中から出てくる、写真、衣服、食器、家電…、流されてしまった家、柱だけになってしまった家…、あの日まで、家族の絆の象徴であった物が、今は悲しい姿となってしまっています。持ち主の方や家族の皆さんは今どうしているのだろう。胸が詰まる想いでした。これから、私たちには何ができるのでしょうか。引き裂かれた家族の絆を取り戻し、より、強く、固い絆となるよう、私たちは被災地・被災者の方々に想いをよせて支援を続けなくてはなりません。今日はあの日から5ヶ月となりましたが、いくら時が経とうとも忘れずに、これからもできることを考え、行動していきたいと思います！私の職場の皆さん、北海道の皆さん、そして全国の皆さん、本当にありがとうございました！これからも被災地・被災者の方々と共に頑張りましょう！



## 《無事に帰京》 8月12日

8月12日（金）早朝5時前、私たち第14次メンバーは、無事東京に到着しました。予定よりも大幅に早い早朝にも関わらず、河野書記長にお出迎えをいただきました。大変ありがとうございました！

東京駅で解散した私たちは、それぞれの自宅へと向かいます。

家に帰るまでがボランティア。気をつけて帰りたいと思います。本当の最後になりますが、全国の仲間の皆さん、ありがとうございました！（報告者：長谷川）



以 上